

その街特有の文化“絹工場跡地”を活用したコミュニティ施設を設置。

株式会社 まちづくり川俣

機関名	株式会社まちづくり川俣		
所在地	福島県伊達郡川俣町字八反田 2 3 (川俣町商工会内)		
電話番号	0 2 4 - 5 6 5 - 2 3 7 7		
地域概要	(1)管内人口 17 千人	(2)管内商店街数 6 商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 3	(2)会員数 92 商店	
	(3)空店舗率 13.2%	(4)大型店空き店舗数 0	
	鉄炮町商店街、瓦町商店街、中丁商店街		
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成 16 年度 コミュニティ施設活用事業 (高齢者等交流施設)

- ・コミュニティスペース、町民ギャラリー、休憩所、地域文化情報発信スペース、地場産品紹介コーナー等を設置。

総事業費

18,000 千円

【事業実施内容】

1. 背景

川俣町は、阿武隈山地西斜面の丘陵地帯にあり、伊達郡南部に位置し、福島市の東南およそ 22km、県都周辺の主要な地区拠点として存立する。川俣町の高齢人口比率は 28.1%(平成 15 年 7 月現在)と高く、少子高齢社会への対応は中心市街地活性化においても重要な課題となっている。

川俣町の中心市街地活性化においては、“いにしへの架け橋”をコンセプトに TMO(株式会社まちづくり川俣)と行政、町民、並びに商店街が一体となって事業を推進することが求められて



川俣町の位置 (福島県 HP を基に作成)

いる。その嚆矢となる事業が、絹蔵 (かつて、絹産業で利用していたもので、蔵の所有者が蔵を整理したため、それを TMO が借り受けることになったもの) を活用した事業

である。本事業はTMO構想において中心市街地の拠点の一つ「道の股」の中核的な施設として位置づけられ、平成16年度から18年度までの3年間にわたり実施するものである。

2. 事業内容

本事業では、絹蔵(空き店舗)を活用し、地域の高齢者等交流促進を中心としながら地域生活者支援サービス及び商店街利用者サービス等の提供を兼ね備えた施設を整備し、さまざまなイベント等を展開することで中心市街地の賑わいを創出するとともに中心商店街の活性化を図ることを目的としている。

(1) 事業概要

蔵内を改装し、各種イベントの実施等により町民の交流を図った。

(2) 施設内容

①町民交流のためのコミュニティスペース

高齢者を中心とした町民が気軽に立ち寄れるスペースであるとともに、イベント等に向けた絹蔵オリジナルメニュー「軍鶏カレー」などの試食の場にもなっている。

②町民ギャラリー

いにしへの写真展、春秋会写真展、和紙人形展、フラワーアレンジメントなど町民による様々な作品などを展示している。

③地場産品紹介コーナー

地産地消を進めるため、地元で取れた野菜等を絹蔵で紹介している。



絹蔵



コミュニティスペース



町民ギャラリー



地場産品紹介コーナー

(3) 事業運営体制

運営は、事務局職員 1 名と施設スタッフ 2 名（パート社員）で対応している。なお、役場や商店街、並びに地域住民などと連携を図りながら協働で事業を実施している。

(4) 期間(平成 16 年度事業)

平成 16 年 9 月～平成 17 年 3 月(平成 19 年 3 月までの継続事業)。

(5) イベント

①オープニングイベント

絹蔵のオープンにあわせてイベントを開催した。(9 月 4 日)

- 1) イベント内容：テープカット、商店会による屋台村、演奏（川俣吹奏楽団、川俣織姫太鼓、川俣三味線愛好会、山木屋太鼓）、演舞（からりこヨサコイ隊）、早食い競争、ビンゴゲーム

- 2) 入場者：800 人



絹蔵オープニングイベント

②朝市(絹蔵朝市)

季節感のある地場産業などをテーマに「絹蔵朝市」と称する市を行なった。

③落語会(12 月 11 日)

- 1) 出演：五代目三遊亭圓場

- 2) 入場者数：192 人

④長寿イベント(2 月 17 日)

- 1) イベントタイトル：「永山久夫先生の長寿王国！」in 絹蔵

- 2) 講演タイトル：～美しく長生きするための～軍鶏鍋は日本一の長寿食！

⑤コンサート(10 月 9 日・10 日)

- 1) 内容

地元で年 1 回開催される中南米の音楽の祭典「コスキン・エン・ハポン」に合わせ、絹蔵内にステージを作り、全国から集まった演奏家に演奏をお願いした。

- 2) 入場者数：76 人(9 日)、193 人(10 日)

⑥機織り実演

町中で機織りを実演することにより、観光客のみならず町民にも町伝統文化を紹介した。

- 1) 開催日数：25 日(9 月・10 月・12 月)

⑦シニア健康教室

各地で好評の「背伸ばし・腰伸ばし体操教室」を開催した。

⑧絹市(10 月 23 日・24 日)

16 年度の開催で絹市は 31 回目となる。商業・工業・農業各団体の協力のもと、川俣町で生産される絹製品、川俣シャモといったの農畜産物等を町内外に広く周知し、より広く販売することを目的としている。

⑨ひな人形展（3月1日～17日）

江戸時代から明治・大正・昭和まで、さまざまな雛人形を展示した。町内をまるごと展示会場にみたと、絹蔵はその第2会場に位置付けた。

(6) 入場者数 (人)

月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	2,988	2,402	1,320	1,345	801	1,217	2,020	12,093

(平成16年9月4日～17年3月29日)

【 効 果 】

1. 商店街の認知度

これまで中心商店街には町民の交流の場となるコミュニティ施設がなかったが、当該事業により商店街の利便性が向上しつつあり、施設が町民の集いと憩いの場として認知されてきている。また、高齢者向け健康教室を定期的に行うことにより、地域の高齢者の方々が集い、新たな人のつながりが生れた。

2. 商店会の意識の醸成

当該施設でのイベント開催に際し商店会の方々からご協力いただいたが、そのことにより、商店会の方々の間に中心商店街活性化についての意識の醸成を促すことができた。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業費の確保

当初は、国・県・町がそれぞれ事業費の3分の1を負担してくれるということで事業計画を進めていたが、町からの補助金が6分の1に減額すると決めたため、同社で残りの6分の1を負担することとなった。平成16年度は自己資本を充てたが、今後は当施設での収益事業を考慮しながら事業費を賄う必要がある。

2. 個店の売上向上

絹蔵の集客は向上したものの、それが商店街の売上の向上にはまだまだあまりつながっていない。今後は、商店街の店舗に絹蔵のイベント案内チラシをおく、逆に絹蔵に商店街の店舗の商品割引券をおくなどして、絹蔵と個店の顧客の回遊性を高め売上向上に繋げることを狙っていく。

3. 町全体の活性化

絹蔵とは別の絹工場跡地を民族資料館として整備する予定である。現状、絹蔵は独立した施設、いわば「点」としての活動であるが、民族資料館とのつながりにより「線」として捉え、イベント等を展開していきたい。また、将来的には現在でも祭りなどを行っている近隣の神社などとのつながりを考え、町を「面」でとらえ活性化を図っていきたい。

平成17年度は引き続き当該施設において、より多くの方に当該施設を利用してもらうためにはどのようなサービスを実施するのが効果的か、当該施設の来場者に商店街で買物してもらうためにはどのような仕掛けが効果的か、などの実証実験を行うこととしている。

【事業の実施ポイント】

1. 単なる空き店舗の活用だと集客力がなくなるので、仕掛け作りが重要となる。一定以上の空き店舗の規模の大きさと広い駐車場が必要である。
2. コミュニティ施設を基点としたイベントを行うこと。その際には、町民参加のイベントがあることが大切で、街の一体感を醸成する。地元の方からアドバイスやイベントのアイデアを頂くことで、企画の充実及び町民の参加意識の向上が図れる。
3. 空き店舗対策といっても、ハード面だけでなくソフト面も同時に進行させることが重要で、さらに街の文化面も含めて考えることが必要である。つまり、その街にしかない文化を掘り起こし活用することが必要である。

【関連URL】

- まちづくり川俣 <http://www.kawamata.cc/>
川俣町商工会 <http://www.kawamata-shokokai.com/>
川俣町 <http://www.town.kawamata.fukushima.jp/>